

<研究名称>

簡易的誤嚥有無検出法の考察

<実施責任者>

リハビリテーション 言語聴覚士 中澤 肇

<研究期間>

倫理審査委員会承認後から3年間

<研究の目的・意義>

嚥下造影検査は誤嚥の有無を確認するために有用な検出方法だが、被ばくや検査の準備が煩雑で大掛かりというデメリットもある。急性期での経口摂取は誤嚥性肺炎の危険性が伴う。そのため、経口摂取が可能か否かの判断をする必要がある。急性期の患者は心身状態が低下しており、大掛かりなVF実施は困難なことが多く、その方法は反復唾液飲みテスト、改定水飲みテスト、フードテストとなっており、簡便だがVFの誤嚥検出力には及ばない現状がある。3つのテストに加えて、特に誤嚥の有無と相関のある評価方法を選択できることが可能と考えられる。本研究の目的は、ベッドサイドで誤嚥の有無と相関が高い評価方法を考察することである。

<実施内容（方法）等>

VF実施前に、細菌カウンターによる細菌数の検出、口腔内phの検出、口腔内粘度の評価の3段階評価を実施。また、VF前後2日間以内に、RSST、DSS、藤島グレード、痰の有無を評価、数値化し順位相関係数を求める。また、誤嚥の有群と無群の2群間で分散分析を行う。

<実施責任者及び実施担当者>

実施責任者 リハビリテーション 技師長 木村 和久

実施担当者 リハビリテーション 言語聴覚士 中澤 肇

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ
〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院 リハビリテーション 中澤 肇

TEL 0166-22-8111 FAX 0166-24-4648